

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成三〇年一月～二月)

Ⅰ 熊谷市史編さん委員会報告

平成二九年度第二回熊谷市史編さん委員会

日時 平成三〇年三月二十八日(水) 午後二時開会
場所 熊谷市役所本庁舎 会議室三〇三

【概要】

○ 議 事

(報告事項)

①平成二九年度第一回熊谷市史編さん委員会について
・前回の当委員会の会議(以下、本項において「前回の会議」という。)の概要について、事務局から報告

を行った。

②本年度における各専門部会の調査活動について
・本年度(平成二九年度。以下、本項において同じ。)、前回の会議以後における各専門部会の調査活動について、部会長が当委員会の委員で、かつ、今回の会議に出席している部会(考古、近世)については当該部会長から、それ以外の部会(古代、中世、近代、現代、仏像・仏画)については事務局から、それぞれ報告を行った。

③本年度における寄贈・寄託資料について

・本年度、当市史編さん室において寄贈又は寄託を受けた資料(新堀新田 安藤修平氏収集文書、川崎市 北光夫氏収集文書及び東京都台東区 熊谷寿郎・熊

谷明子家文書)について、事務局から報告を行った。

④本年度における事務局の活動について

・本年度、事務局において行った古文書調査、新聞記事調査、行政文書の整理及び保存、市政宅配講座等への職員の派遣等の活動について、報告を行った。

⑤『熊谷市史 通史編上巻』及び『熊谷市史研究 第一〇号』の刊行について

・「熊谷市史編さん大綱」に基づき本年度に刊行を行う『熊谷市史 通史編上巻』及び『熊谷市史研究 第一〇号』の概要(装丁等)及び内容について、事務局から報告を行った。

(協議事項)

①熊谷市史編さんについて (答申)

・当委員会に対する諮問案件として、前回の会議において、事務局から説明を行い、次回(今回)の会議において答申をまとめることとなっていた「熊谷市史編さん大綱」の改定(調査報告書「中世の石造物」に係る年次計画の変更)について、当該改定に関係する中世専門部会中の中世石造物調査班の専門調査

員である栗岡真理子委員から、改めて改定の必要性等に関する説明が行われた後、事務局から答申案を提示し、これを基に協議が行われた。

・協議の結果、答申案の一部を修正した上で、諮問のとおり「熊谷市史編さん大綱」を改定することについて適当と認める旨の答申を行うこととなった。

(文責 大野 幸人)

II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成三〇年八月二〇日(月) 午後二時開会
場所 市立熊谷図書館 第二講座室

【概要】

1 経過報告

・平成二九年度熊谷市史編さん委員会
・平成二九年度熊谷市史編集会議
・人権問題担当編集委員の委嘱について

2 各専門部会活動報告

・考古、古代、中世、近世、近代、現代、仏像・仏画専門部会及び学校資料調査について、編集委員及び事務局から報告を行った。

3 事務局活動報告について

・古文書調査、埼玉県行政文書調査、新聞記事調査、「歴史公文書」の整理・保存について事務局から報告を行った。

4 平成二九年度の熊谷市史編さん刊行物について

・『熊谷市史 通史編上巻 原始・古代・中世』及び『熊谷市史研究 第一〇号』について事務局から報告を行った。

5 広報・普及について

・講座及び講演や刊行物の促進等について事務局から説明を行った。

6 平成三〇年度以降に刊行される本の編集について

・平成三〇年度刊行予定の『熊谷市史資料編8 近代・現代3(妻沼地域)』について、事務局から概要を説明したあと、進捗状況等について、高橋信之委員から報告があった。レイアウト等について各委員から意見があり、今後検討していくこととなった。

・平成三〇年度刊行予定の『熊谷市史料集5 吉田市右衛門家文書2「諸事纂要」(仮)』について、事務局が概要を説明したあと、北村委員から補足の説明があった。

・平成三二年度刊行予定の『熊谷市史報告書 仏像・仏画1(北部地域)(仮)』について、事務局から概要を説明したあと、林委員から進捗状況等について補足説明があった。

【意見等】

・報告書で「直実・実盛伝説」を刊行予定である。後の時代も取り上げることになる。近世専門部会等で、関連することについて取り上げる場合は、情報提供の依頼要望があった。

(文責 蛭間 健悟)

III 専門部会活動報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼幹夫

3 考古専門部会の開催

平成三〇年六月二日(土) 市立熊谷図書館 第二講座室
通史編刊行に伴う次の諸対応について、協議した。

- ・ 正誤表の作成
- ・ 抜刷の希望
- ・ 執筆者への贈呈分の取扱いについて

・ 刊行記念講演会(一月三日開催)の演者人選

1 通史編上巻の刊行

平成三〇年三月、『熊谷市史通史編上巻 原始・古代・中世』が刊行された。

考古部会は、全十章からなる本文七〇四頁のうち、第

4 編集会議への出席

平成三〇年八月二〇日(月) 市立図書館 第二講座室

一章から第三章一五二頁を担当した。平成二七年三月に『熊谷市史資料編1 考古』を刊行して以後の三年間、執筆・編集・校正を行い、完遂することができた。この場を借りて執筆者の各委員、図版原板所蔵者等関係各位の御尽力、御協力に厚く謝意を表したい。

また、通史編編集の途次、図版原板の計画的な収集が必要なことなどの反省点を述べ、事務局の尽力があつたことに謝意を表した。

2 平成二九年度第二回編さん委員会への出席

平成三〇年三月二八日(水) 熊谷市役所会議室三〇三

5 普及活動

①熊谷図書館郷土史講座での講演

部会長の柿沼が編さん委員として出席し、考古部会の活動報告、通史編上巻のお礼を述べた。

平成三〇年五月二二日(火) 熊谷図書館第一講座室
平成三〇年度郷土史講座は、刊行間もない『熊谷市史通史編上巻』をテキストとして六回に分けて行うもので、

その第一回を部会長が担った。テーマは、「熊谷の考古世界―妻沼低地における水田稲作の開始―」。

②『熊谷市史 通史編上巻 原始・古代・中世』刊行記念会

平成三〇年十一月三日（土・祝）

市立熊谷図書館第一講座室

四名の演者のうち、次の二名の執筆者が特論し、エッセンスを分かりやすく解説した。

細田 勝 「縄文的くらしを探る」

関 義則 「熊谷の終末期古墳の諸相」

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

1 通史編の執筆・編集

平成三〇年三月に刊行した『熊谷市史 通史編上巻 原始・古代・中世』にかかる執筆、校正等を行った。なお、当専門部会は次の章、節、項を担当した。

第三章 ヤマト政権の誕生と武蔵

第三節第四項の一部、第五項、第二〇項

第四章 律令国家の成立と変容

第五章 北武蔵地域の古代社会

それぞれの執筆者が、執筆を終了させ、複数回の校正を行った。全体にかかる校正作業は亀谷弘明専門調査員が、最終調整は部会長が行った。

当専門部会は、平成二〇年に発足し、平成二五年には『熊谷市史 資料編二 古代・中世』を刊行した。資料編刊行後は、『通史編上巻』の編集にあたり、一〇年目にしてようやく担当の全事業を完了することができた。この間に御尽力いただいた各関係機関や関係者そして事務局の方々に、深く感謝申し上げたい。

2 普及活動

①熊谷図書館郷土史講座での講演

（平成三〇年五月二九日 市立熊谷図書館）

完成したばかりの『熊谷市史 通史編上巻』をテキストに「郷土史講座 やさしい熊谷の歴史―古代から中世へ―」が開催された。当専門部会からは、部会長が「〇

○に注目して読む『熊谷市史 通史編上巻 原始・古代・中世』―「川」とともに暮らした先人たち―と題した講演を行った。

② 『熊谷市史 通史編上巻』 刊行記念講演会

(平成三〇年十一月三日 市立熊谷図書館)

『通史編上巻』の刊行を記念して講演会が開催された。当専門部会からは、部会長が「古代熊谷の人びと」の演題で講演を行った(詳細については98頁参照)。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

1 通史編の執筆・編集

平成三〇年三月刊行の『熊谷市史 通史編上巻 原始・古代・中世』における、校正作業を中心に行った。なお、当専門部会は、以下の第六章から第一〇章(二三三―七〇一頁)を担当した。

第六章 武士団の成長と治承・寿永の内乱

第七章 鎌倉幕府の政治と執権政治の確立

第八章 鎌倉府体制と武蔵武士

第九章 享徳の乱と北武蔵の戦国時代

第一〇章 中世の生活と文化

執筆者は、編集委員のほか、特定の分野の執筆を担当した特別執筆者等を含め一人となった。また、最終確認は、平成三〇年三月に茨城大学において部会長と事務局とで行った。

当専門部会は、平成二〇年から始まり、平成二四年度には『熊谷市史 資料編二 古代・中世』を刊行、そして平成二九年度に『通史編上巻』の刊行となった。この一〇年間に多くの方々との協力を得た。この場を借りて心より感謝申し上げたい。

『通史編上巻』の刊行をもって、一段落はついたが、平成三二年度には、中世石造物班が担当する『報告書 中世石造物』が刊行する予定で、現在編集中である。また、熊谷直実や斎藤実盛のその後の伝承等を取り上げる『報告書 直実・実盛伝説』も企画されている。新たな体制を作り、編集にとりかかっていくこととしたい。

2 普及活動

① 熊谷図書館郷土史講座での講演

(平成三〇年六月 市立熊谷図書館)

熊谷図書館にて、『熊谷市史 通史編上巻』をテキストに「郷土史講座 やさしい熊谷の歴史―古代から中世へ―」が開催された。当専門部会からは、以下の四名がそれぞれ講演した。

・六月八日 鎌倉 佐保

「平安時代後〜末期の熊谷

―兵の時代から「武者の世」へ―

・六月一二日 伊藤 瑠美

「鎌倉時代の熊谷武士―玉井氏・熊谷氏を中心に―

・六月二二日 田中 大喜

「南北朝〜室町時代の熊谷武士」

・六月二八日 築瀬 大輔

「越相同盟と熊谷地域のかかわり

―北条三郎はどこを通ったのか―

② 『熊谷市史 通史編上巻』 刊行記念講演会

(平成三〇年十一月三日 市立熊谷図書館)

『通史編上巻』の刊行を記念して講演会が開催された。当専門部会からは、部会長が「熊谷直実―伝説のはじまり―」の演題で講演を行った(詳細については98頁参照)。

3 中世石造物調査

① 平成三〇年度第一回 中世石造物担当者会議

(平成三〇年七月一日 市立熊谷図書館第二講座室)

事務局が刊行スケジュール等の説明を行ったあと、報告書の目次、体裁について検討を行った。集成本については、細部まで検討がなされ、表記の新たなルールが設定された。図版については、見直しが必要な箇所があるため、引き続き編集委員による検討を加えることとなった。

② 平成三〇年度第二回 中世石造物担当者会議

(平成三〇年十一月四日 市立熊谷図書館第二講座室)

事務局より、報告書のスケジュールについて、刊行が迫ってきたことを説明し、審議に入った。目次・担当者

について改めて検討し、江南地域の板碑についても必要なものは取り上げることとした。図版については、諸岡委員の拓本との突合作業からの課題点が挙げられ、それに基づき様式の検討を行った。また、写真等のレイアウトについても再検討を行った。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世専門部会では、平成三〇年の主な活動として、平成二九年度の第三回部会、平成三〇年度の第一回・第二回部会をそれぞれ開催した。平成三〇年度はあと一回の部会を予定している。また、各部会の前には、資料編三巻の巻担当者による打合せを行った。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二九年度第三回部会(平成三〇年三月二日)

・古文書調査について

編さん室より古文書調査の現状報告があり、前回の会

議以後に調査を終了した文書群はないが、進捗状況の説明があつた。また、古書店で販売されている古文書等が数点あり、一部購入したとの報告があつた。

・資料編の進捗状況について

資料編(三冊)のうち、はじめに刊行予定の妻沼地域編について検討がなされた。巻担当の細野委員から章立案とともに、上江袋村の掲載候補文書について具体的な報告があつた。松本委員からは人権関係の史料をどう組み込んでいくか、斉藤委員からは江戸との関係を利根川と河川流通というかたちでまとめていくことなどの議論があつた。

・刊行に向けての計画

熊谷在方の巻担当者を藤井委員にお願いする案が出て、了承を得た。あわせて、大阪へ転職された高橋委員(専門調査員)から委員を辞任したいとの申し出があり、代わりに特別調査員の藤井委員を専門調査員にすることを決定した。

・調査の報告・計画について

国文学研究資料館が所蔵する掛川家文書(永井太田)の調査状況について説明があつた。また、松本委員から埼

玉県立文書館保管文書のうち指定文書の閲覧についての確認があった。

平成三〇年度第一回部会(平成三〇年六月六日)

・古文書調査について

編さん室より古文書調査の現状報告があり、前回の会議以後に調査を終了した文書群はないが、妻沼地域を優先して調査しているとの報告があった。

・資料編の進捗状況について

資料編三冊の各巻担当者より報告があった。まず、細野委員(妻沼地域編担当)から修正した章立て案とともに、間々田村の掲載候補文書についての提案があり、さらに妻沼地域における領主支配の変遷について説明があった。備前堀用水の史料や領主支配の示し方などについて議論された。また、石山委員(熊谷宿担当)からも章立て案の報告があった。史料にもとづいて宿独自のテーマ立てることが課題とされた。藤井委員(熊谷在方担当)からも章立て案の報告があった。熊谷宿との史料の棲み分けについて問題の指摘がなされた。

・調査の報告・計画について

前回の部会に引き続き、国文学研究資料館が所蔵する掛川家文書の調査について近世文書分はほぼ終了したとの報告があった。その他の古文書調査として、行田市郷土博物館の調査や遠隔地の調査が提案された。

平成三〇年度第二回部会会議(平成三〇年十一月三日)

・古文書調査について

編さん室より古文書調査の現状報告があり、前回の会議以後に一件の文書群を受け入れたが、調査を終了した文書群はなく、引き続き妻沼地域を優先して調査しているとの報告があった。

・資料編の進捗状況について

まず、細野委員(妻沼地域編担当)からほぼ最終的な章立て案、章ごとの担当分担案、掲載資料候補リスト、今後の予定などについて説明がなされた。掲載史料の分量(点数・頁数)などを確認し、人権問題の組み込み方などを検討した。口絵や付録などの検討も課題とされた。また、石山委員(熊谷宿担当)からも章立て案が再提示され、特に伝馬・助郷と宿の訪問者について説明がなされた。

さらに、岩瀬文庫(愛知県西尾市)で旅日記などの熊谷宿関係の古文書調査を予定しているとの報告があった。藤井委員(熊谷在方担当)からも章立て案の報告があった。一〇月に市史編さん室で調査を行い、古文書などの史料データを収集し、それらを精査しながら章立て案を深めているところであるとの報告がなされた。

・刊行に向けての計画

編さん室から刊行スケジュールの確認があり、史料の筆耕方法などについて検討した。

・調査の報告・計画

行田市郷土博物館の企画展「鷹狩と忍城」に出品されていた文書について確認があり、編さん室で調査することとなった。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

1 平成三〇年度第一回近代専門部会会議

(平成三〇年五月一三日 市立熊谷図書館)

今年度末の「熊谷市史資料編8」の刊行に向け、各委員が作業の進行状況について説明し、その中で資料の移動や節・項の再構成について協議した。その後、刊行スケジュールについて了承し、次回会議までの予定を確認して終了した。

2 平成三〇年度第二回近代専門部会会議

(平成三〇年八月二六日 市立熊谷図書館)

事務局から刊行スケジュールの変更の提案があり、了承した。その後、各章節の変更点を確認するとともに、凡例を検討した。なお、社会分野については、諸事情により、各章ごとに委員及び事務局とで分担するかたちに変更することとした。今後は、執筆を終えた節もしくは項から順次入稿し、校正作業を行うことになった。また、刊行までは会議を開催せず、各委員と事務局とで連絡を取りながら、進めていくことになった。

六 現代専門部会

現代専門部会長代理 高橋 信之

1 平成二九年度第六回専門部会会議

(平成三〇年二月二八日 妻沼中央公民館)

各委員が「熊谷市史 資料編8」の資料選定及び解説執筆作業の進捗について報告し、その後、頁数の割振りや目次の確認を行った。

2 平成三〇年度第一回専門部会会議

(平成三〇年四月二五日 妻沼中央公民館)

各委員が頁数の削減状況などについて報告し、その後、解説の体裁について確認した。また、人権分野の資料の選び方及び考え方について、部会内で共通認識を持って進められるよう協議を行った。

3 平成三〇年度第二回専門部会会議

(平成三〇年六月一三日 妻沼展示館)

各委員が進捗状況についての報告を行い、その後、資料の削減や、目次の変更について検討した。今後は、今

年度末の刊行まで会議は開催せず、各委員が事務局と連絡を取りながら作業を進めることになった。

七 仏像・仏画専門部会

仏像調査専門部会長 林 宏一

1 仏像・仏画悉皆調査

平成二四年から調査を開始し、平成三〇年は七年目となる。本年は、市内中部域を中心とした地域の調査を行った。また、第一冊目の報告書の刊行が近づいてきたことから、その対象となる北部地域において、調査が未実施であった寺院についての調査を行った。さらに、月一回の調査とは別に、一〇月、十一月には、北部地域の神社や集会所等の寺院以外にある仏像等の調査も行って

いる。
調査内容は、写真撮影及び寸法や形状・材質等を記した調査カードの作成である。この一年間で三〇〇点弱の仏像・仏画等の調査を終えることができた。この七年間の累計では、二〇〇〇点超の調査を行ったことになる。なお、調査前の各寺院との交渉は坂東隆秀特別調査員、

調査後の調査カードと写真の整理は西口由子専門調査員が行った。

また、新たな協力員として、建部好江、大城杏奈、西野航、三橋由吾、花澤明優美、前田伽南の各氏を委嘱した。

平成三〇年に実施した調査は以下のとおりである。

- | | | | |
|----|------------------------|----|---------------------|
| 1 | 原島養平寺（二回目）（二月一六日） | 15 | 肥塚成就院（一回目）（二〇月一〇日） |
| 2 | 代東善寺（二回目）（二月一九日） | 16 | 妻沼一本木集会所（二〇月一〇日） |
| 3 | 末広円光寺（四月一七日） | 17 | 八ツ口光明院（二〇月二二日） |
| 4 | 箱田蓮昭寺（四月一七日） | 18 | 上須戸八幡大神社（二〇月二二日） |
| 5 | 星川圓照寺（五月二五日） | 19 | 永井太田観音堂（二〇月二二日） |
| 6 | 中奈良國性寺（観音堂）（五月二五日） | 20 | 妻沼台曾登神社（二〇月一六日） |
| 7 | 妻沼聖天山本殿（歓喜院聖天堂）（六月二五日） | 21 | 弥藤吾杉之道公民館（二〇月一六日） |
| 8 | 妻沼聖天山平和の塔（六月二五日） | 22 | 弥藤吾浅見公民館（二〇月一六日） |
| 9 | 妻沼聖天山祈祷所（六月二五日） | 23 | 弥藤吾弥下自治会館（二〇月一六日） |
| 10 | 上中条閻魔堂（七月一〇日） | 24 | 肥塚成就院（二回目）（二〇月二六日） |
| 11 | 妻沼聖天山大師堂（七月一〇日） | 25 | 戸出金錫寺（二〇月二六日） |
| 12 | 妻沼台摩多利天（七月一〇日） | 26 | 平戸源宗寺（事前調査）（二〇月二六日） |
| 13 | 太井福聚院（九月一二日） | 27 | 妻沼福寿寺自治会集会所（二〇月二二日） |
| 14 | 平戸超願寺（九月一二日） | 28 | 妻沼若宮・川端集会所（二〇月二二日） |
- 2 調査報告書『仏像・仏画1』の編集作業等
- 平成三〇年二月一九日、三月二日、五月一四日、六月一八日、七月三〇日の五日間にわたり、妻沼中央公民館及び妻沼展示館において、部長、原口雅樹専門調査員、西口由子専門調査員が、調査報告書『仏像・仏画1』の編

集作業を行った。具体的には、報告書レイアウトの検討、対象となる仏像のランク分け（これにより掲載スペースを決定）等を実施した。

3 代 東善寺阿弥陀如来立像調査

平成二九年一月二七日の調査で確認した代 東善寺の木造阿弥陀如来立像について、二月一九日に再調査を行った。その後、本像は熊谷市立熊谷図書館に寄託されることになった。また、『熊谷市史 通史編上巻』の巻頭写真に掲載するとともに、第一〇章において、部会長が本像の概要についての執筆をした。

さらに、七月二十六日、東京国立博物館資料館において、本像のコンピュータ断層撮影調査を実施した。同調査には埼玉県文化財保護審議会委員岩佐光晴氏（成城大学文学部教授）、慶派仏師研究の第一人者山本勉氏（清泉女子大学文学部教授）にも立会いただき、大きな成果を得ることができた（詳細については、9頁参照）。

最後に、調査先寺院・自治会関係者各位の多大なる御協力に対して、心よりお礼申し上げます。